

町 長	副町長	課 長	主 幹	担 当	合 議

別記様式第 4 号

会 議 等 結 果 報 告 書			
会議区分	会 議 ・ 打合せ ・ 協 議	文書番号	課長会議
		決裁期日	平成 2 2 年 1 0 月 1 9 日
名 称	臨時課長会議		
日 時	平成 2 2 年 1 0 月 1 9 日(火) 1 3 時 0 0 分 ~ 1 5 時 0 0 分		
場 所	役場 3 階 第 3 会議室		
出席者	副町長、教育長、 各課長 13 人、消防上富良野署長 説明員（企画財政班）2 人 事務局 1 人 計 19 人		

内 容

副町長あいさつ

- ・平成 2 3 年度の予算編成に向けた協議を行う。先日の課長懇談会において意見交換を行い、枠配分方式（導入から 5 回目）による編成を行うこととしたところであり、担当（企画財政班）で、整理した内容について協議し決定したい。

進行：副町長

1 平成 2 3 年度の予算編成について

(1) 平成 2 3 年度財政見込み

(2) 中期財政見込み（H23～H27 年度）

企画財政班主幹：資料により説明

町民生活課長：町税の見込みについて資料により説明

副町長：財政見込みについては、全員で共通理解に立って予算編成に臨まなければならない。

教育振興課長：・アバウトな見込みとはいえ、歳入については堅く見込みを立てていると思う。そのような中で、一定の財源余剰（H25 以外）となっており、このような財源が政策経費となっていくことで理解してよいか。

・人件費が 120,000 千円（H22～H23）の減となっているが、どのような要因か。職員数の適性化計画を策定するにあたっては、人材もまちづくりの重要な財産であると受け止め、必要以上の削減とならないよう対応が必要。

総務課長：これまでは、職員数についても大幅な削減を進めてきたが、将来の組織も含め、責任ある行政運営の体制整備が必要と考えている。人件費の減は、退手組合負担金（3 年の 1 度）の減等による。

副町長：経済状況が厳しいときこそ、行政によせられる期待が大きくなり、その期待に応えられないことが行政不満に繋がるということも懸念される。財源には限りがあることから、「あれも、これも」とはいかないが、人的資源を活用し地域ニーズに応えることも重要である。

・中期財政見込みは、投資的事業などのシュミレーションがしっかりできているわけではないので、隠れ事業（新たな財源の必要性）がまだまだあるものと受け止めなければならない。

町立病院事務長：中期財政見込みの中で、政策枠はどのように捉えているか。せっかくの政策が、政策倒れになるようなことがないように一定程度の額で見込んでおくことが理想と考える。

議会事務局長：H22 の決算見込みからすると、繰越金、予備費を含め、大きな財源が見込まれるが。

副町長：財政見込み上は、一定程度の余剰財源が見込まれているが、本町の財政構造は、地方交付税はじめ依存財源に頼っており脆弱である。その出元となる国家財政（税収）の状況がすると、極めて不安定な状態にあるといわざるを得ない。

- ・本年度の一定程度の余剰財源については、国の補正予算と併せて、本年度執行すべき課題については、速やかな執行ができるよう準備を進められたい。

- ・他になければ、財政見込みについて全体で確認する。

(3) 平成 23 年度予算枠配分の考え方（案）

企画財政班主幹：資料により説明

総務課長：配分が 100% となっていることから、従来の事業（経費）をそのまま予算化すれば完了、ということのないよう、それぞれ配分内での議論を各課内でお願います。

副町長：説明のあった案で枠配分を進めることで全体確認してよいか。

全体：確認する。

(4) 平成 23 年度予算編成スケジュール

企画財政班主幹：資料により説明

副町長：特に発言がなければ、説明のスケジュールを全体で確認する。

- ・政策調整枠については、時代の要請の中でいろいろとプランを練っていると思うが、政策調整会議につないで組織決定していくプロセスを、再確認されたい。

2 その他

総務課長：町表彰式の事務従事について、別紙資料により説明。

- ・各課長は、受付・案内係をお願いする。

町民生活課長：自然環境を活かすセミナーについて、別紙資料により説明

- ・職員の積極的に聴取をお願いする。

閉会

副町長：本格的に予算編成作業に着手する時期となった。各課長が中心となって、取組まれたい。

【 15 時 00 分終了】